

## 学校教育法施行規則第165条の2\*に係る対応について

標記の件に関しては、2017年度6月定例教授会での依頼(6月教授会資料7-2)、10月定例教授会での進捗報告(10月教授会資料8)を経て、このほど、各学科からの検討案を調整しましたので、下記のとおり上程します。

\* 学校教育法施行規則第165条の2(平成29年4月1日施行)

大学は、当該大学、学部又は学科若しくは課程(大学院にあっては、当該大学院、研究科又は専攻)ごとに、その**教育上の目的を踏まえて**、次に掲げる方針(大学院にあっては、第三号に掲げるものに限る。)を定めるものとする。

一 卒業の認定に関する方針／二 教育課程の編成及び実施に関する方針／三 入学者の受入れに関する方針

2 前項**第二号に掲げる方針**を定めるに当たっては、同項**第一号に掲げる方針との一貫性の確保**に特に意を用いなければならない。

### 記

1. 知識・能力等の「学修(習)の成果」「卒業の認定に関する方針」「教育課程の編成及び実施に関する方針」「入学者の受入れに関する方針」等について(別添1～3参照)

別添1「複数の『新しい能力』への対応(案)」(キャリア教養学科/幼児教育保育学科)

別添2「卒業の認定に関する方針」「教育課程の編成及び実施に関する方針」「入学者の受入れに関する方針」(改正案)

別添3「学修成果の評価の方針(アセスメント・ポリシー)」

2. 履修系統図について

(1) 図形式 別添4「履修系統図(図形式)」(キャリア教養学科/幼児教育保育学科)参照

(2) 表形式 ①関係ファイルについては、2017年度末の成果として、デスクネット「文書管理」に格納(04\_自己点検・評価関係>2017年度>短大>履修系統図)する。

②PDFファイルを、本学Webサイトにて閲覧可能とする(2017年度末)。後出3参照

3. 本学Webサイトでの情報公開について

本件に関しては、学校教育法施行規則第172条の2に係る教育研究活動等の状況についての情報公開として、2017年度末を目途に本学Webサイトで関係PDFファイルを掲載する。

4. 2018年度からの必須事項＝機関レベル(短期大学全体)、教育課程運営主体レベル(学科等)＝

(1) 「単位認定表」＝裏面 短期大学基準協会様式18 例＝による定期的な点検(セメスター毎)

(2) 学修成果の評価

(GPA分布、単位取得率、学位取得率、資格試験の合格率、ポートフォリオ、ルーブリックなどの活用)

(3) 教育課程の課題への対応

(教育課程運営主体レベルでの「授業科目内容(概要)」「到達目標」「成績評価統一基準」の検討・見直し、「授業科目番号、授業科目区分および授業科目」の適正化等)

5. その他(関連情報)

○ 大学における教育内容・方法の改善等について(文部科学省高等教育局大学振興課大学改革推進室)

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/koutou/daigaku/04052801/005.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/daigaku/04052801/005.htm)

○ 私立大学等改革総合支援事業(同 私学助成課)

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/koutou/shinkou/07021403/002/002/1340519.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/shinkou/07021403/002/002/1340519.htm)

本件照会等:学事センター(2F 点検・評価、内線2711)

単位認定状況表

学科名等

区分	授業科目名	授業形態	履修者数	成績評価の方法	最終評価(%)				
					合				否
					S	A	B	C	D
○○科目									
○○科目									
評価基準									

[注]

- 平成29年度に卒業した学生が入学時から卒業までに履修した科目について記載してください。
- 「区分」は、教育課程表に沿って「共通科目」、「専門科目」等の科目群名を記載してください。
- 「授業形態」は、「講義」、「演習」、「実習」等を記載してください。
- 「成績評価の方法」は、「期末試験90%、レポート10%」等を記載してください。
- 「最終評価(%)」は、各短期大学の評価基準に合わせて変更・列の追加をしてください。 ※本学注
- 「評価基準」は、評価の点数区分について記載してください。

(例)合格…S:100~90、A:89~80、B:79~70、C:69~60 不合格…D:59~0

※本学注 GPA制度による成績評価の列を追加

## 内部質保証ルーブリック

項目		Awareness 認識・自覚 Level I	Development 開発・発展 Level II	Proficiency 熟練・習熟 Level III	Sustainable Continuous Quality Improvement 持続的・継続的な質の改善 Level IV
1	建学の精神を確立している。 教育目的・目標を確立している。	<input type="checkbox"/> 建学の精神を公表している。	<input checked="" type="checkbox"/> 建学の精神を公表している。	<input checked="" type="checkbox"/> 建学の精神を公表している。	<input checked="" type="checkbox"/> 建学の精神を公表している。
			<input type="checkbox"/> ステークホルダーが認識できるよう努めている。	<input checked="" type="checkbox"/> ステークホルダーが認識できるよう努めている。	<input checked="" type="checkbox"/> ステークホルダーが認識できるよう努めている。
				<input type="checkbox"/> ステークホルダーから理解を得るための取り組みを確立している。	<input checked="" type="checkbox"/> ステークホルダーから理解を得るための取り組みを確立している。
				<input type="checkbox"/> 人材養成の目的の中に含めて学生が認識できるよう努めている。	<input checked="" type="checkbox"/> 人材養成の目的の中に含めて学生が認識できるよう努めている。
2	学習成果（Student Learning Outcomes）を定めている。	<input type="checkbox"/> 学習成果を定めている。	<input checked="" type="checkbox"/> 学習成果を定めている。	<input checked="" type="checkbox"/> 学習成果を定めている。	<input checked="" type="checkbox"/> 学習成果を定めている。
			<input type="checkbox"/> 学習成果の獲得を測定する仕組みを定めている。	<input checked="" type="checkbox"/> 学習成果の獲得を測定する仕組みを定めている。	<input checked="" type="checkbox"/> 学習成果の獲得を測定する仕組みを定めている。
				<input type="checkbox"/> 学習成果の獲得を評価・判定する仕組みを定めている。	<input checked="" type="checkbox"/> 学習成果の獲得を評価する仕組みを定めている。
					<input type="checkbox"/> 学習成果の獲得について評価・判定した結果をフィードバックする仕組みを定めている。
3	卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受入れの方針（三つの方針）を一体的に策定し、公表している。	<input type="checkbox"/> 学習成果の獲得を目標とした三つの方針が一体的に策定され、公表されている。	<input checked="" type="checkbox"/> 学習成果の獲得を目標とした三つの方針が一体的に策定され、公表されている。	<input checked="" type="checkbox"/> 学習成果の獲得を目標とした三つの方針が一体的に策定され、公表されている。	<input checked="" type="checkbox"/> 学習成果の獲得を目標とした三つの方針が一体的に策定され、公表されている。
			<input type="checkbox"/> 授業科目の成績評価に学習成果が的確に反映されている。	<input checked="" type="checkbox"/> 授業科目の成績評価に学習成果が的確に反映されている。	<input checked="" type="checkbox"/> 授業科目の成績評価に学習成果が的確に反映されている。
				<input type="checkbox"/> 教育課程の全授業科目に学習成果が反映してあるか精査する仕組みがある。	<input checked="" type="checkbox"/> 教育課程の全授業科目に学習成果が反映してあるか精査する仕組みがある。
					<input type="checkbox"/> 教育課程の全授業科目に学習成果が反映されている。
4	自己点検・評価活動等の実施体制を確立し、内部質保証に取り組んでいる。 教育の質を保証している。	<input type="checkbox"/> 一部の組織（委員会等）において、教育の質保証を図る査定の仕組みが機能している。	<input type="checkbox"/> 全専任教員で、教育の質保証を図る査定の仕組みが機能している。	<input type="checkbox"/> 全専任教職員で、教育の質保証を図る査定の仕組みが機能している。	<input type="checkbox"/> 理事長のリーダーシップの下、全専任教職員で、教育の質保証を図る査定の仕組みが機能している。
		<input type="checkbox"/> 上記の項目1～3全てにチェックがある。	<input type="checkbox"/> 上記の項目1～3全てにチェックがある。	<input type="checkbox"/> 上記の項目1～3全てにチェックがある。	<input type="checkbox"/> 上記の項目1～3全てにチェックがある。
判定 (三つの意見等に記載)		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「早急に改善を要すると判断される事項」：チェックの入らない項目が一つでもある場合、早急に改善を促す。</li> <li>○ 「向上・充実のための課題」：一部の組織（委員会等）において教育の質保証を図る査定の仕組みを、全専任教職員で、教育の質保証を図る査定の仕組みにするよう改善を促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各基準の評価結果：全専任教員で、教育の質保証を図る査定の仕組みを、全専任教職員で、教育の質保証を図る査定の仕組みにするよう改善を促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「特に優れた試みと評価できる事項」：項目4の両方にチェックが入った場合、特に優れた試みとして評価する。</li> </ul>	同左

**学習成果**：学習成果とは、教育課程や教育プログラム・コースにおいて、一定の学習期間終了時に、学生が学習を通して知り、理解し、行い、実演できることを期待される内容を表明したものである。学習成果は、学生が学習を通して達成すべき知識、スキル、態度などとして示すものである。またそれぞれの学習成果は、具体的で、一定の期間内で達成可能であり、学生にとって意味のある内容で、測定や評価が可能なるものである（中央教育審議会答申「学士課程教育の構築に向けて（平成20年）」より）。学習成果のアセスメントと結果の公表を通じて、短期大学のアカウンタビリティが高まる。

## 「内部質保証ルーブリックについて」

- 短期大学は自己点検・評価に積極的に取り組み、それに基づき教育研究活動の見直しを継続的に行う内部質保証を機能させる必要がある。当協会では、第3評価期間においては、この内部質保証を重点項目として評価することとしている。
  - 短期大学評価基準は、基準Ⅰにおいて、短期大学の教育の成果を把握した上で、改めてその責任と役割を確認し内部質保証に取り組み、基準Ⅱにおいて、基準Ⅰの達成のために提供される教育や支援の状況を明らかにし、基準Ⅲにおいて、その教育研究活動や短期大学組織を支える資源を把握し、基準Ⅳにおいて、全体を統制する仕組みを評価・点検するものとなっており、基準Ⅰは、基準Ⅱ～Ⅳ全てに関するものとなっている。
  - しかし、基準Ⅰにおいて、基準Ⅱ～Ⅳのテーマ等についてPDCAにより改善が図られているかどうかについての評価を行うことは、多岐にわたり難しい面があるため、自己点検・評価報告書により基準Ⅰ～Ⅳを評価した結果、学習成果を焦点として内部質保証がどのような状況であったかを、内部質保証のルーブリックを用い判定を行うこととする。その結果は、評価結果に反映させることとする。
  - 本ルーブリックは、評価員はもとより評価校にも配布し、評価校での積極的な取り組みを促すとともに、本ルーブリックを基に自己点検・評価報告書の基準Ⅰ～Ⅳへの積極的な記述を期待する。
  - なお、本ルーブリックについては、使用しながら改善を図っていくこととしており、例えば、すべての短期大学がレベルⅠに到達した段階で、レベルⅡをレベルⅠとし、順にレベルⅢ及びⅣをレベルⅡ及びⅢとして、新たなレベルⅣを示すなど、全体の高度化を図っていくこととしている。
- ※ 1. 項目2 - Ⅳのフィードバックする仕組みとは、課題をフィードバックし解決する仕組みを言う。
- ※ 2. 項目4 - Ⅳについては、学長を含む全専任教職員で学習成果を学生に示す必要があり、理事長のガバナンスにより学習成果を獲得できる仕組みが出来ているかを評価するものである。

学修(習)成果	学士力(学士課程答申)	社会人基礎力			全国大学実務教育協会 上級資格(秘書系)			キャリア教養学科 学修(習)成果 2017.06.19時点	キャリア教養学科 卒業の認定に関する方針(案)	常磐短期大学 卒業の認定に関する方針(案)	
分類	概要(構成要素): DPへ展開	前に踏み出す力	考え抜く力	チームで働く力	領域・領域 含む、 基礎的 なスキル 、資格 的実務 、資格 実践に 必要 な知識 を	総合的 なスキル 、資格 実践の 専門的 領域を 知る	力 領域 と 学 び の 能 力 発 達 の 見 地 から 解決	1 「DP/CP見直し」検討 A 短大全体に位置づける内容。 B 短大全体及び学科に共通内容。 C 学科のみに位置づける内容。 D 整理統合または削除可能な内容。 E その他(CPとの整合など) ※①～⑩は、原資料の配列順。	学科に位置づける内容	主文 (主文) キャリア教養学科では、本学の建学の精神、教育理念、教育研究上の目的等に基づき、所定の期間在学し、所定の単位を修得した上で、次の知識や資質能力を身につけた学生に「短期大学士(キャリア教養学)」の学位を授与します。	主文 (主文) 本学の建学の精神および学則に示された教育の理念・教育の目的等に基づき、短期大学士としての広く深い教養と専門知識を基礎として、さらに専門性と創造性を高め、人格を磨いていくことができる学生を社会に送り出します。
知識・理解	特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。 (1) 多文化・異文化に関する知識の理解 (2) 人類の文化、社会と自然に関する知識の理解				1-1.実務理解 1-2.基本能力活用 1-3.実務・学修に取組む力	2-1.知識 2-2.スキル 2-3.実務実践力	3-1.総合的課題発見・解決力 3-2.実践活動の学びの継続力	①現代社会を主体的に生きる知恵としての教養を身につける。 ②人間・社会・芸術・自然を多面的に把握するための基礎知識を身につける。	・幅広い知識を身につけることができる。 ・基礎的な専門職業能力を身につけることができる。	知識・技能 自己を成長させながら社会に貢献できる「教養ある職業人」として自立するための、幅広い知識と基礎的な専門職業能力(実務能力)を身につけている。	知識・技能 1.現代教養講座とそれぞれの学科授業科目からなる学習を通じて、しっかりとした職業意識に基づく基礎的職業能力を身につけた自立した学生。
汎用的能力	知的活動でも職業生活や社会生活でも必要な技能 (1) コミュニケーション・スキル 日本語と特定の外国語を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる。 (2) 数量的スキル 自然や社会的現象について、シンボルを活用して分析し、理解し、表現することができる。 (3) 情報リテラシー 情報通信技術(ICT)を用いて、多様な情報を収集・分析して適正に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。 (4) 論理的思考力 情報や知識を複眼的、論理的に分析し、表現できる。 (5) 問題解決力 問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を確実に解決できる。	働きかけ力		発進力 傾聴力 柔軟性	1-1.実務理解 1-2.基本能力活用	2-1.知識 2-2.スキル 2-3.実務実践力	3-1.総合的課題発見・解決力 3-2.実践活動の学びの継続力	⑥日本語/英語を適切に使って自分の考えを表現できる。 ⑦諸事象をシンボル化してとらえ、その関係性を分析・理解できる。 ⑧ICTを活用して問題解決に必要な情報を適切に収集できる。	・異文化理解力を身につけることができる。 ・適切な自己表現ができる。 ・情報能力を身につけることができる。	コミュニケーション・スキル グローバル化の中で展開する知識基盤社会において、諸課題に取り組むための情報能力と異文化理解力を身につけるとともに、適切な自己表現ができる。	汎用的能力 2.質の高い実践力と責任意識をそなえ、豊かな人間性をもった、創造的で常に成長する学生。 3.グローバル化の中で展開する知識基盤社会において、その問題を捉え、問題の解決に真摯に取り組むことができる情報能力と国際感覚をそなえた学生。
態度・志向性	(1) 自己管理能力 自らを律して行動できる。 (2) チームワーク、リーダーシップ 他者と協調・協働して行動できる。また、他者に方向性を示し、目標の実現のために動員できる。 (3) 倫理観 自己の良心と社会の規範やルールに従って行動できる。 (4) 市民としての社会的責任 社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使しつつ、社会の発展のために積極的に関与できる。 (5) 生涯学習力 卒業後も自律・自立して学習できる。	主体性 実行力	計画力	ストレスコントロール	1-1.実務理解 1-2.基本能力活用	2-1.知識 2-2.スキル 2-3.実務実践力	3-1.総合的課題発見・解決力 3-2.実践活動の学びの継続力	⑧主体的に生きる意味を認識し、その自己表現に向かって行動する。 (2) チームワーク、リーダーシップ (4) 市民としての社会的責任 ⑨社会を構成する一員であることを自覚し、他者との積極的な協働により行動する。 ⑩自己の良心と社会規範にしたがって誠実に行動する。	・実践力と責任意識をそなえることができる。	社会性・協調性 教養とキャリアにかかわる学びを通し、自立した社会人になるための実践力と創造性を有している。	態度・志向性
力 総合的 と 創造的 的 学習 的 思考 経 験	獲得した知識等を活用し、新たな課題に適用し課題を解決する能力	主体性 実行力	課題発見力 計画力 創造力		1-1.実務理解 1-2.基本能力活用 1-3.実務・学修に取組む力	2-1.知識 2-2.スキル 2-3.実務実践力	3-1.総合的課題発見・解決力 3-2.実践活動の学びの継続力	⑪社会的に与えられた場所で生起する諸課題を正しく理解し、獲得した知識を活かして適切に解決できる。			

社会人基礎力の分類は、①②による。  
①〈表3-2「基礎的・汎用的能力」とこれまでに提唱されてきた関連する諸能力との関係について(試案)〉(『キャリア発達にかかわる諸能力の育成に関する調査研究報告書』文部科学省・国立教育政策研究所生徒指導研究センター、平成23年3月)  
②『社会人基礎力 育成の手引き ―日本の将来を託す若者を育てるために 教育の実践現場から』(経済産業省 制作・調査 河合塾)63頁(表「社会人基礎力」と「学士力(例)」の関係)

【高大接続改革】社会で自立して活動していくために必要な「学力の3要素」  
①知識・技能の習得  
②知識・技能を活用して、自ら課題を発見しその解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力  
③主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度

幼児教育保育学科  
複数の「新しい能力」への対応

国立教育政策研究所『児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について』  
H14.11  
幼稚園教諭  
モデルカリキュラム  
「保育所保育指針」

別添1②幼児教育保育学科(案)

学修(習)成果	学士力(学士課程答申)	社会人基礎力			OECD KEY COMPETENCIES			職業的(進路)発達(キャリア発達)にかかわる諸能力			これからの時代の幼稚園教諭に求められる資質能力			保育所職員に求められる専門性		
		前に踏み出す力	考え抜く力	チームで働く力	① 言語や知識、技術と相互作用的に活用する能力	② 多様な関係形成における人間関係形成能力	③ 自律的に行動する能力	人間関係形成能力	情報活用能力	将来設計能力	意思決定能力	幼稚園教諭としての資質能力	新たな課題に対応できる力	組織的・協働的に諸問題を解決する力	※ 針 3 月 平成 31 年 1 月 2 日「保育所保育指針」の改正	※ 針 3 月 平成 31 年 1 月 2 日「保育所保育指針」の改正
分類	概要(構成要素): DPへ展開															
知識・理解	特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。															
	(1) 多文化・異文化に関する知識の理解															
	(2) 人類の文化、社会と自然に関する知識の理解															
汎用的能力	知的活動でも職業生活や社会生活でも必要な技能															
	(1) コミュニケーション・スキル 日本語と特定の外国語を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる。	働きかけ力		発進力 傾聴力 柔軟性												
	(2) 数量的スキル 自然や社会的事象について、シンボルを活用して分析し、理解し、表現することができる。															
	(3) 情報リテラシー 情報通信技術(ICT)を用いて、多様な情報を収集・分析して適正に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。															
	(4) 論理的思考力 情報や知識を複眼的、論理的に分析し、表現できる。		課題発見力 計画力 創造力													
(5) 問題解決力 問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を確実に解決できる。	主体性 実行力	課題発見力 計画力 創造力														
態度・志向性	(1) 自己管理能力 自らを律して行動できる。	主体性 実行力	計画力	自己管理能力												
	(2) チームワーク、リーダーシップ 他者と協調・協働して行動できる。また、他者に方向性を示し、目標の実現のために動員できる。	主体性 働きかけ力 実行力	計画力	発進力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 自己管理能力												
	(3) 倫理観 自己の良心と社会の規範やルールに従って行動できる。			ストレス コントロール力												
	(4) 市民としての社会的責任 社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使しつつ、社会の発展のために積極的に関与できる。	主体性 実行力		状況把握力 規律性 自己管理能力												
	(5) 生涯学習力 卒業後も自律・自立して学習できる。	主体性 実行力	計画力													
総合的な学習の場	獲得した知識等を活用し、新たな課題に適用し課題を解決する能力	主体性 実行力	課題発見力 計画力 創造力													

幼児教育保育学科 卒業の認定に関する方針(案)		常磐短期大学 卒業の認定に関する方針(案)	
主文	(主文) 幼児教育保育学科では、本学の建学の精神、教育理念、教育研究上の目的等に基づき、所定の期間在学し、所定の単位を修得した上で、次の知識・技能や資質能力を身につけた学生に「短期大学士(幼児教育保育学)」の学位を授与します。	主文	(主文) 本学の建学の精神および学則に示された教育理念・教育の目的等に基づき、短期大学士としての広く深い教養と専門知識を基礎として、さらに専門性と創造性を高め、人格を磨いていくことができる学生を社会に送り出します。
① 知識・技能	人間性豊かで実践力のある教育者・保育者を目指すため、幼児教育・保育に関する幅広い専門的知識および技能を有している。	知識・技能	1. 現代教養講座とそれぞれの学科授業科目からなる学習を通じて、しっかりとした職業意識に基づく基礎的職業能力を身につけた自立した学生。
② 活用能力・自己の理解能力・コミュニケーション能力	幼児教育・保育に求められる多様な教育課題に対して、幅広い専門的知識および技能を活用し、物事を多角的に捉え、子どもたち一人一人の個性を把握しながら、コミュニケーションする能力を身につけている。	汎用的能力	2. 質の高い実践力と責任意識をそなえ、豊かな人間性をもった、創造的で常に成長する学生。 3. グローバル化の中で展開する知識基盤社会において、その問題を捉え、問題の解決に真摯に取り組むことができる情報能力と国際的感覚をそなえた学生。
③ 論理的思考力・課題解決力	幼児教育・保育に求められる多様な教育課題に対して、情報や知識を多面的な視点で論理的に分析・整理して捉え、新しい発想を取り入れながら、課題解決に向け真摯に取り組むことができる能力を身につけている。	態度・志向性	
④ 自律性・協働性	・幼児教育・保育に求められる多様な教育課題に対して、主体的・自律的に取り組むことができる。 ・自らの能力を高めるべく、不断に自己研鑽に励むことができる。 ・自らの考えを伝えながら、他者と円滑に協調・協働して取り組むことができ、人間関係形成能力を身につけている。	態度・志向性	

【高大接続改革】社会で自立して活動していくために必要な「学力の3要素」  
①知識・技能の習得  
②知識・技能を活用して、自ら課題を発見しその解決に向けて探究し、成果等表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力  
③主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度

社会人基礎力の分類は、①②による。  
①〈表3-2「基礎的・汎用的能力」とこれまでに提唱されてきた関連する諸能力との関係について(試案)〉  
〔『キャリア発達にかかわる諸能力の育成に関する調査研究報告書』文部科学省・国立教育政策研究所生徒指導研究センター、平成23年3月)〕  
②『社会人基礎力 育成の手引き - 日本の将来を託す若者を育てるために 教育の実践現場から』

1. 短期大学全体（機関レベル）

(1) 卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

変更後	現行
<p>常磐短期大学 卒業の認定に関する方針</p> <p>本学の建学の精神および学則に示された教育理念・教育の目的等に基づき、短期大学士としての広く深い教養と専門知識を基礎として、さらに専門性と創造性を高め、人格を磨いていくことができる学生を社会に送り出します。</p> <p>1. 現代教養講座とそれぞれの学科<u>授業</u>科目からなる学習を通じて、しっかりとした職業意識に基づく基礎的職業能力を身につけた自立した学生。<u>(知識・技能、汎用的能力、態度・志向性)</u></p> <p>2. 質の高い実践力と責任意識をそなえ、豊かな人間性をもった、創造的で常に成長する学生。<u>(汎用的能力、態度・志向性)</u></p> <p>3. グローバル化の中で展開する知識基盤社会において、その問題を捉え、問題の解決に真摯に取り組むことができる情報能力と国際的感覚をそなえた学生。<u>(汎用的能力、態度・志向性)</u></p>	<p>常磐短期大学 学位授与の方針</p> <p>本学の建学の精神および学則に示された教育の理念・<u>教育の方針</u>・教育の目的等に基づき、短期大学士としての広く深い教養と専門知識を基礎として、さらに専門性と創造性を高め、人格を磨いていくことができる学生を社会に送り出します。</p> <p>1. 現代教養講座とそれぞれの学科<u>専攻</u>科目からなる学習を通じて、しっかりとした職業意識に基づく基礎的職業能力を身につけた自立した学生</p> <p>2. 質の高い実践力と責任意識をそなえ、豊かな人間性をもった、創造的で常に成長する学生</p> <p>3. グローバル化の中で展開する知識基盤社会において、その問題を捉え、問題の解決に真摯に取り組むことができる情報能力と国際的感覚をそなえた学生</p>

(2) 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

変更後	現行
<p>常磐短期大学 教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>本学の建学の精神および学則に示された教育理念・教育の目的等に基づき、全学生を対象とする現代教養講座とそれぞれの学科<u>授業</u>科目を二つの大きな柱として<u>教育課程を編成し、実施</u>します。</p> <p>1. 短期大学士としての教養を培うための現代教養講座を中心とする教養教育と連動した<u>学科授業科目</u>。</p> <p>2. 学理に基づく高度な知識と実践的技能とを習得できる学習プロセス。</p> <p>3. <u>豊かな人間性を涵養し環境に順応できる人材を育成するための適切な教育方法</u>。</p>	<p>常磐短期大学 教育課程編成・実施の方針</p> <p>本学の建学の精神および学則に示された教育の理念・<u>教育の方針</u>・教育の目的等に基づき、全学生を対象とする現代教養講座とそれぞれの<u>学科の教育目標にあわせた学科専攻科目</u>を二つの大きな柱として<u>カリキュラムを編成</u>します。</p> <p>1. 短期大学士としての教養を培うための現代教養講座を中心とする教養教育と連動した<u>学科専攻科目の編成</u></p> <p>2. 学理に基づく高度な知識と実践的技能とを習得できる学習プロセスの提供</p> <p>3. <u>併設大学や学内に付置する各センターや地域社会や企業との連携を通じた実践的教育機会の提供</u></p>

(3) 入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)

短期大学全体 (機関レベル) 改正 ~~(案)~~

変更後	現行
<p data-bbox="215 241 726 309">常磐短期大学 <u>入学者の受入れに関する方針</u> (<u>アドミッション・ポリシー</u>)</p> <p data-bbox="167 353 798 459">本学の<u>教育理念</u>、<u>教育の目的等</u>を理解し、<u>社会や地域</u>に貢献する意欲のある次の人を、<u>多様な入試制度</u>により、<u>広く国内外</u>から求めます。</p> <ol data-bbox="167 533 798 857" style="list-style-type: none"> <li>1. 高等学校等の教育で身につけてきた学力を基礎にして、<u>社会の発展のために学理に基づいた高度な知識の獲得と技能の習得を目標とする人。</u>(<u>知識・技能</u>)</li> <li>2. 人間として<u>自ら真摯に生きる目的を考え、その実現に向けての取り組みを、的確に他者へ伝えられる人。</u>(<u>思考力・判断力・表現力</u>)</li> <li>3. 職業を通じた自立的な生き方や<u>幼児教育・保育に関する様々な問題</u>に関して人間性豊かに、<u>創造的に取り組む意欲をもつ人。</u>(<u>主体性・多様性・協働性</u>)</li> </ol>	<p data-bbox="901 241 1380 275">常磐短期大学 <u>アドミッション・ポリシー</u></p> <p data-bbox="821 353 1436 488">本学の<u>教育の理念</u>、<u>教育の方針</u>ならびに<u>教育の目的等</u>を理解し、<u>社会や地域に貢献するため</u>、<u>社会適応力</u>および<u>社会活動力を身につける意欲のある次の人</u>を、<u>多様な入試制度</u>により、<u>広く国内外</u>から求めます。</p> <ol data-bbox="821 533 1436 857" style="list-style-type: none"> <li>1. 高等学校等の教育で身につけてきた学力を基礎にして、<u>社会の発展のために学理に基づいた高度な知識の獲得と技能の習得を目標とする人</u></li> <li>2. 人間として<u>生きる目的を考え、その実現のために自ら取り組み、真摯に努力する人</u></li> <li>3. 職業を通じた自立的な生き方や<u>幼児教育・保育に関する様々な問題</u>に関して人間性豊かに、<u>創造的に取り組む意欲をもつ人</u></li> </ol>



## 2. キャリア教養学科

### (1) 卒業の認定に関する方針 (ディプロマ・ポリシー) 全面改正 (案)

#### 常磐短期大学キャリア教養学科

#### 卒業の認定に関する方針(卒業認定・学位授与の方針、ディプロマ・ポリシー)

キャリア教養学科では、本学の建学の精神、教育理念、教育研究上の目的等に基づき、所定の期間在学し、所定の単位を修得した上で、次の知識・技能や資質能力を身につけた学生に「短期大学士(キャリア教養学)」の学位を授与します。

#### 1. 知識・技能

自己を成長させながら社会に貢献できる「教養ある職業人」として自立するための、幅広い知識と基礎的な専門職業能力(実務能力)を身につけている。

#### 2. コミュニケーションスキル・情報リテラシー

グローバル化の中で展開する知識基盤社会において、諸課題に取り組むための情報能力と異文化理解力を身につけるとともに、適切な自己表現ができる。

#### 3. 論理的思考力・問題解決力

広く深い教養と専門的職業能力・専門知識を身につけ、課題発見とその解決能力を有している。

#### 4. 社会性・協調性

教養とキャリアにかかわる学びを通し、自立した社会人になるための実践力と創造性を有している。

※備考 「学士力」との対応関係: 知識・理解→1 / 汎用的能力→2, 3 / 態度・志向性→4

### (2) 教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー) 全面改正 (案)

#### 常磐短期大学キャリア教養学科

#### 教育課程の編成及び実施に関する方針(教育課程編成・実施の方針、カリキュラム・ポリシー)

キャリア教養学科では、本学の建学の精神、教育理念、教育研究上の目的等に基づき、卒業の認定に関する方針(卒業認定・学位授与の方針、ディプロマ・ポリシー)に掲げる能力(学修成果)を学生が身につけるため、以下に示すとおり教育課程を編成し、実施します。

#### 1. 教育課程の編成と特色等

##### (1) 教育内容 (編成方針)

幅広い問題関心を培う「現代教養講座」を基礎としつつ、マナーなどの修養的教養や異文化理解を含むコミュニケーション能力、基礎的 ICT 能力、幅広い知識及び自己内省からなる教養が身につくように教育課程を編成する。

① 「教養ある職業人」として、社会環境に対応できる実践力、応用力を養うための科目群を配置する。

② 短期大学士として必要な知識・技能、汎用的な能力、態度・志向性を養うため、授業科目区分の科目群は、順序性・系統性を持たせて配置する。

③ 全国大学実務教育協会認定資格(上級秘書士・上級秘書士(国際秘書)・上級秘書士(メディカル秘書)・上級ビジネス実務士・上級情報処理士・プレゼンテーション実務士)を取得するための科目群を配置する。

##### (2) 教育方法 (実施方針)

本学での学修を通して実践力のある「教養ある職業人」を育成するため、段階的な教育方法を実施する。

##### 【1年次】

① 「キャリア形成科目」「キャリア教養科目」を中心に、幅広い知識とビジネスマナーを身につけながら職業観を養う。

② 進路志望によってコースを選択し、専門的知識を身につける。

##### 【2年次】

① 1年次に学んだ内容を発展させて、実践力・応用力を高めていく。

② 2年間の学びの総決算として、「課題研究」において、各自のテーマを深めながら、論文または作品にまとめしていく。

## 2. 「現代教養講座」科目の構成

現代社会を多面的に把握して、主体的に生きる知恵としての教養を身につける教授内容で構成する。

## 3. 「キャリア教養学科授業科目」の構成

「教養ある職業人」として求められる専門職業能力（実務能力）、コミュニケーションスキル、情報能力を身につけるための教授内容で構成し、さらにそれらを総合するための「課題研究」を必修とする。

## 4. 卒業の認定に関する方針との関係性

	授業科目の区分	概要	DP1	DP2	DP3	DP4
現代教養講座	心の充実	学びの意味を考え、学びの基礎を身につける。	●		◎	
	思想と文化	文学・歴史・芸術・ことばについて考える。	●	◎		
	社会と人間	経済・経営・生活・教育・法律を考える。	◎			●
	情報と科学	環境・情報・健康・科学・数理・心理を考える。	◎		●	
キャリア教養学科授業科目	キャリア形成科目	将来のキャリアを展望し、そのための基礎能力を培う。	◎	○		●
	キャリア教養科目	キャリアにつながる知識と実務能力を身につける。	●	◎		○
	ビジネス経営科目	企業と社会の理解を深め、ビジネス実務能力を身につける。	◎		●	○
	情報・医療事務科目	オフィス実務を支える ICT・医療事務の知識を身につける。	◎		●	○

学修成果（学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項）

なお、上記2～4については、「卒業の認定に関する方針との関係性」が明確になるまで、暫定的に下記のとおり統合し、項目「2. 授業科目の構成」とする。

## 2. 授業科目の構成

### (1) 「現代教養講座」科目の構成

現代社会を多面的に把握して、主体的に生きる知恵としての教養を身につける教授内容により、次の区分で構成する。

- ① 「心の充実」 学びの意味を考え、学びの基礎を身につける。
- ② 「思想と文化」 文学・歴史・芸術・ことばについて考える。
- ③ 「社会と人間」 経済・経営・生活・教育・法律を考える。
- ④ 「情報と科学」 環境・情報・健康・科学・数理・心理を考える。

### (2) 「キャリア教養学科授業科目」の構成

「教養ある職業人」として求められる専門職業能力（実務能力）、コミュニケーションスキル、情報能力を身につけるために、次の授業区分により、実践的・多面的に教育課程を構成する。

- ① 「キャリア形成科目」として、将来のキャリアを展望し、基礎能力を培うための科目を構成する。
- ② 「キャリア教養科目」として、キャリアにつながる知識と実務能力を身につけるための科目を構成する。
- ③ 「ビジネス経営科目」として、企業と社会の理解を深め、ビジネス実務能力を身につけるための科目を構成する。
- ④ 「情報・医療事務科目」として、オフィス実務を支える ICT・医療事務の知識を身につけるための科目を構成する。

(3) 入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)

キャリア教養学科改正 (案)

変更後	現行
<p>キャリア教養学科 <u>入学者の受入れに関する方針</u> (<u>アドミッション・ポリシー</u>)</p> <p>本学科では、<u>教育研究上の目的を踏まえて、「教養ある職業人」の育成を掲げています。このことには、教養が人間の尊厳と自立を培うものであること、そして、キャリア(職業意識と基礎的職業能力)がその教養にこそ基礎づけられる、との理解があります。</u></p> <p><u>本学科の目的を達成するために、以下のような人を迎えたいと考えています。</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. <u>高等学校までの教育の内容をおおよそ理解できる人。(知識・技能)</u></li> <li>2. <u>現状を分析して課題を明らかにし、目標をもって行動できる人。(思考力・判断力・表現力)</u></li> <li>3. <u>他者の意見を丁寧に聞いて、自分の意見や考えをわかりやすく伝えられる人。(思考力・判断力・表現力)</u></li> <li>4. <u>幅広い教養と職業的専門能力を身につける意欲がある人。(主体性・多様性・協働性)</u></li> <li>5. <u>意見や立場の違いを理解し、協調性をもって行動できる人。(主体性・多様性・協働性)</u></li> </ol>	<p>キャリア教養学科 <u>アドミッション・ポリシー</u></p> <p>本学科は教養を「<u>教養ある職業人</u>」の育成を教育目的として掲げています。つまり、本学科は、<u>教養が人間の尊厳と自立を培うものであり、キャリアは教養にこそ基礎づけられると理解しています。本学科は以下のような人を迎えたいと考えています。</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. <u>高等学校などの教育の内容をおおよそ理解できる人。</u></li> <li>2. <u>自らの教養力や職業能力を身につける意欲がある人。</u></li> <li>3. <u>高等学校などで明確な目標に向かって努力し、一定の成果を収めた人。</u></li> <li>4. <u>高等学校などで真摯な学習・生活態度をとってきた人。</u></li> <li>5. <u>国語または英語の得意な科目に基づき、教養と職業能力を身につける意欲のある人。</u></li> <li>6. <u>国内外を問わず、自国や社会での経験を生かし、スキルアップをしたいという意欲のある人。</u></li> </ol>

各入試制度とアドミッション・ポリシーで求められる資質・能力との関係

学力の3要素	入試制度	AO入試 I期 枠型	AO入試 II期 個別型	AO入試 III期 個別型	一般推薦入試	指定校推薦入試	一般入試	卒業生推薦	社会人入試
	審査・選考方法 アドミッション・ポリシー	GD・個人面接	作文・個人面接	作文・個人面接	個人面接	個人面接	学力試験・集団面接	個人面接	小論文・個人面接
知識・技能	1. 高等学校までの教育の内容をおおよそ理解できる。	○	○	○	○	○	◎	○	○
思考力・判断力・表現力	2. 現状を分析して課題を明らかにし、目標をもって行動できる。 3. 他者の意見を丁寧に聞いて、自分の意見や考えをわかりやすく伝えられる。	◎	○	○	○	○		◎	○
主体性・多様性・協働性	4. 幅広い教養と職業的専門能力を身につける意欲がある。 5. 意見や立場の違いを理解し、協調性をもって行動できる。	◎	◎	◎	◎	◎		◎	◎

◎：特に重視する ○：重視する 空欄：対応している

### 3. 幼児教育保育学科

#### (1) 卒業の認定に関する方針 (ディプロマ・ポリシー) ~~全面改正 (案)~~

##### 常磐短期大学幼児教育保育学科

##### 卒業の認定に関する方針(卒業認定・学位授与の方針、ディプロマ・ポリシー)

幼児教育保育学科では、本学の建学の精神、教育理念、教育研究上の目的等に基づき、所定の期間在学し、所定の単位を修得した上で、次の知識・技能や資質能力を身につけた学生に「短期大学士(幼児教育保育学)」の学位を授与します。

#### 1. 知識・技能

人間性豊かで実践力のある教育者・保育者を目指していくため、幼児教育・保育に関する幅広い専門的知識および技能を有している。

#### 2. 活用能力・自他の理解能力・コミュニケーション能力

幼児教育・保育に求められる多様な教育課題に対して、幅広い専門的知識および技能を活用し、物事を多角的に捉え、子どもたち一人一人の個性を把握しながら、コミュニケーションする能力を身につけている。

#### 3. 論理的思考力・課題解決力・創造力

幼児教育・保育に求められる多様な教育課題に対して、情報や知識を多面的な視点で論理的に分析・整理して捉え、新しい発想を取り入れながら、課題解決に向け真摯に取り組むことができる能力を身につけている。

#### 4. 自律性・協働性

- ・幼児教育・保育に求められる多様な教育課題に対して、主体的・自律的に取り組むことができる。
- ・自らの能力を高めるべく、不断に自己研鑽に励むことができる。
- ・自らの考えを伝えながら、他者と円滑に協調・協働して取り組むことができ、人間関係形成能力を身につけている。

※備考「学士力」との対応関係：知識・理解→1 / 汎用的能力→2, 3 / 態度・志向性→4

#### (2) 教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー) ~~全面改正 (案)~~

##### 常磐短期大学幼児教育保育学科

##### 教育課程の編成及び実施に関する方針(教育課程編成・実施の方針、カリキュラム・ポリシー)

幼児教育保育学科では、本学の建学の精神、教育理念、教育研究上の目的等に基づき、卒業の認定に関する方針(卒業認定・学位授与の方針、ディプロマ・ポリシー)に掲げる能力(学修成果)を学生が身につけるため、以下に示すとおり教育課程を編成し、実施します。

#### 1. 教育課程の編成と特色等

##### (1) 教育内容 (編成方針)

- ①幼稚園教諭二種免許状および保育士資格の取得要件に対応可能な教育課程を編成する。
- ②短期大学士として必要な知識・技能、汎用的な能力、態度・志向性を養うため、授業科目区分の科目群は、順序性・系統性を持たせて配置する。
- ③幼児教育・保育に関する教育課題に対応できる実践力、応用力を養うための科目群を配置する。

##### (2) 教育方法 (実施方針)

本学での学修を通して人間性豊かで実践力のある教育者・保育者を養成するため、段階的な教育方法を実施する。

##### 【1年次】

- ①講義・演習科目では、乳幼児を取り巻く社会環境や、乳幼児期の発達段階や特性等、幼児教育・保育に不可欠な知識を学ぶ。
- ③ 実技科目では、理論・知識の習得をもとに、指導のベースとなる技能を身につける。

##### 【2年次】

- ①1年次に学んだ内容からさらに踏み込んで、実践力、応用力を養う。
- ②教育実習・保育実習を通して乳幼児と触れ合い、子どもの理解、具体的な援助法・指導法などを修得する。

2. 「現代教養講座」科目の構成

現代社会を多面的に把握して、主体的に生きる知恵としての教養を身につける教授内容で構成する。

3. 「幼児教育保育学科授業科目」の構成

乳幼児期の発達と教育についてよく理解をした上で、専門家としての質の高い保育者となっていくために、授業科目区分は「教育の本質と目的」「教育の対象の理解と方法」「保育内容の研究」「保育者の知識と技能」と、基礎・基本を踏まえ、実践的・多面的に教育課程を構成する。

4. 卒業の認定に関する方針との関係性

	授業科目の区分	概要	DP1	DP2	DP3	DP4
現代教養講座	心の充実	学びの意味を考え、学びの基礎を身につける。	●		◎	
	思想と文化	文学・歴史・芸術・ことばについて考える。	●	◎		
	社会と人間	経済・経営・生活・教育・法律を考える。	◎			●
	情報と科学	環境・情報・健康・科学・数理・心理を考える。	◎		●	
幼児教育保育学科授業科目	教育の本質と目的	保育者に求められる、教育・保育の本質、基礎・基本を広い視点から多面的に学ぶ。	●			○
	教育の対象の理解と方法	乳幼児の発達の方向性を理解し、乳幼児期にふさわしい、一人一人に応じた適切な援助の方法を学ぶ。	◎	●		○
	保育内容の研究	乳幼児の発達に即して全領域を総合的に実践していく力を身につける。	○	●	◎	●
	保育者の知識と技能	保育を实践する上での基礎的・基本的な知識と技能を学び身につける。	●		○	●

学修成果（学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項）

なお、上記2～4については、「卒業の認定に関する方針との関係性」が明確になるまで、暫定的に下記のとおり統合し、項目「2. 授業科目の構成」とする。

2. 授業科目の構成

(1) 「現代教養講座」科目の構成

現代社会を多面的に把握して、主体的に生きる知恵としての教養を身に付ける教授内容により、次の区分で構成する。

- ① 「心の充実」 学びの意味を考え、学びの基礎を身につける。
- ② 「思想と文化」 文学・歴史・芸術・ことばについて考える。
- ③ 「社会と人間」 経済・経営・生活・教育・法律を考える。
- ④ 「情報と科学」 環境・情報・健康・科学・数理・心理を考える。

(2) 「幼児教育保育学科授業科目」の構成

乳幼児期の発達と教育についてよく理解をした上で、専門家としての質の高い保育者となっていくために、次の授業科目区分により、基礎・基本を踏まえ、実践的・多面的に教育課程を構成する。

- ① 「教育の本質と目的」として、保育者に求められる、教育・保育の本質、基礎・基本を広い視点から多面的に学ぶ科目を構成する。
- ② 「教育の対象の理解と方法」として、乳幼児の発達の方向性を理解し、乳幼児期にふさわしい、一人一人に応じた適切な援助の方法を学ぶ科目を構成する。
- ③ 「保育内容の研究」として、乳幼児の発達に即して全領域を総合的に実践していく力を身につける科目を構成する。
- ④ 「保育者の知識と技能」として、保育を实践する上での基礎的・基本的な知識と技能を学び身につける科目を構成する。

(3) 入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)

幼児教育保育学科改正 (案)

変更後	現行
<p>幼児教育保育学科 <u>入学者の受入れに関する方針</u> (<u>アドミッション・ポリシー</u>)</p> <p>短期大学の専門性の高い教育に対応し、自ら学んでいく学力と体力、そして意欲のある人を求めます。特に、子どもたちを育み成長を援助することに喜びを感じる人を積極的に受け入れます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>入学までに受けた教育の知識・技能をおおよそ身につけている人。<u>(知識・技能)</u></li> <li>自ら課題を設定してそれを解決できる人。<u>(思考力・判断力・表現力)</u></li> <li>自らの考えや信念などを他者に伝えることができる人。<u>(思考力・判断力・表現力)</u></li> <li>幼児教育について主体的に学ぼうとする意欲がある人。<u>(主体性・多様性・協働性)</u></li> <li>他者とコミュニケーションをとりながら協働して活動できる人。<u>(主体性・多様性・協働性)</u></li> </ol>	<p>幼児教育保育学科 <u>アドミッション・ポリシー</u></p> <p>入学後の密度の濃い教育に耐えて学んでいくことのできる学力と体力、そして意欲のある者を求めます。特に、子どもたちの成長を育み援助することに喜びを感じるとともに、子どもたちに奉仕する精神を持ち合わせている者を積極的に受け入れます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>入学までに受けた学校教育の内容をおおよそ理解できる。</li> <li>他者とコミュニケーションをとりながら協働して活動できる。</li> <li>指示されるのを待つのではなく、自ら主体的に課題を設定してそれを解決できる。</li> <li>音楽、美術、体育などに関して基礎的な技能を習得し、豊かな感性をもって表現することができる。</li> </ol>

各入試制度とアドミッション・ポリシーで求められる資質・能力との関係

学力の3要素	入試制度	AO入試 I期 対人型	AO入試 II期 個人型	AO入試 III期 個人型	一般推薦入試	指定校推薦入試	一般入試	卒業生推薦	社会人入試
	<p>審査・選考方法</p> <p>アドミッション・ポリシー</p>	GW 個人面談 音楽	作文 個人面談 音楽	作文 個人面談	個人面接 音楽	個人面接 音楽	学力試験 集団面接 音楽	個人面接 音楽	小論文 個人面接 音楽
知識・技能	1. 入学までに受けた教育の知識・技能をおおよそ身につけている人。	◎	○	○	○	○	◎	○	○
思考力・判断力・表現力	2. 自ら課題を設定してそれを解決できる人。	◎							
	3. 自らの考えや信念などを他者に伝えることができる人。	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	◎
主体性・多様性・協働性	4. 幼児教育について主体的に学ぼうとする意欲がある人。	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○
	5. 他者とコミュニケーションをとりながら協働して活動できる人。	◎							○

◎: 特に重視する ○: 重視する 空欄: 対応している

## 学修成果の把握・評価「**アセスメント・ポリシー**」~~(案)~~

常磐短期大学では、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）、入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）の3つのポリシーに基づき、機関レベル（短大全体）、教育課程レベル（学科）、授業科目レベル（教員）のレベルで学修成果を把握・評価する方法を定めています。

### 機関レベル（短大全体）

学生の志望進路（就職率、資格・免許を活かした専門領域への就業率、学生アンケート、卒業生状況調査等）から学修成果の達成状況を検証します。検証結果は、常磐短期大学の教育改善、学生への学習及び進路支援の改善等に活用します。

### 教育課程レベル（学科）

学科における卒業要件達成状況（単位取得状況、GPA）、資格・免許の取得状況、在学中のセメスターごとの単位修得状況等から、教育課程全体を通じた学修成果の達成状況を検証します。

### 授業科目レベル（教員）

シラバスに提示された授業等科目の到達目標への評価や学生アンケート等の結果から、科目ごとの学修成果の達成状況を検証します。科目の成績評価は、シラバスに明示した到達目標に対応した評価方法・基準に沿って適切に行います。

	入学時審査・判定 アドミッション・ポリシーを満たす人材かどうかの検証	単位認定・進級判定 カリキュラム・ポリシーに則って学修が進められているかどうかの検証	卒業認定 ディプロマ・ポリシーを満たす人材になったかどうかの検証
機関レベル (短大全体)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種入学試験</li> <li>・エントリーシート、志望理由書、調査書、活動内容報告等の記載内容</li> <li>・面接内容</li> <li>・学習アセスメント</li> <li>・平行テスト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・GPA</li> <li>・課題研究</li> <li>・修得単位数</li> <li>・単位認定状況</li> <li>・離学率</li> <li>・休学率</li> <li>・免許取得者数</li> <li>・資格試験得者数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生アンケート</li> <li>・学位授与数</li> <li>・免許取得者数</li> <li>・資格試験得者数</li> <li>・就職率</li> <li>・卒業生状況評価</li> </ul>
教育課程レベル (学科)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種入学試験</li> <li>・エントリーシート、志望理由書、調査書、活動内容報告等の記載内容</li> <li>・面接内容</li> <li>・学習アセスメント</li> <li>・平行テスト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・GPA</li> <li>・課題研究</li> <li>・修得単位数</li> <li>・単位認定状況</li> <li>・離学率</li> <li>・休学率</li> <li>・免許取得者数</li> <li>・資格試験得者数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生アンケート</li> <li>・学位授与数</li> <li>・免許取得者数</li> <li>・資格試験得者数</li> <li>・就職率</li> <li>・卒業生状況評価</li> </ul>
授業科目レベル (教員)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレイスメントテスト（キャリア教養学科英語）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成績評価（ルーブリック含む）</li> <li>・学外実習評価（アクティブ・ラーニング含む）</li> <li>・学生授業評価</li> <li>・学修履歴（ポートフォリオ）</li> </ul>	

※関連参考

学習（学修）成果の把握「アセスメント・ポリシー」について

中央教育審議会「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～（答申）」（平成24年8月28日、20頁「①速やかに取り組むことが求められる事項」より）

大学においては、各大学の状況を踏まえ、例えば、以下のような取組を行い、学士課程教育の質的転換を図ることが求められる。

(ア) 学長を中心として、副学長・学長補佐、学部長及び専門的な支援スタッフ等がチームを構成し、当該大学の学位授与の方針の下で、学生に求められる能力をプログラムとしての学士課程教育を通じていかに育成するかを明示すること、プログラムの中で個々の授業科目が能力育成のどの部分を担うかの認識を担当教員間の議論を通じて共有し、他の授業科目と連携し関連し合いながら組織的な教育を展開すること、プログラム共通の考え方や尺度（アセスメント・ポリシー）に則った成果の評価、その結果を踏まえたプログラムの改善・進化という一連の改革サイクルが機能する全学的な教学マネジメントの確立を図る。

学長を中心とするチームは、学位授与の方針、教育課程の編成・実施の方針、学修の成果に係る評価等の基準について、改革サイクルの確立という観点から相互に関連付けた情報発信に努める。特に、成果の評価に当たっては、学修時間の把握といった学修行動調査やアセスメント・テスト（学修到達度調査）、ルーブリック、学修ポートフォリオ等、どのような具体的な測定手法を用いたかを併せて明確にする。

※ 3つのポリシー（特にDPが基本）は測定可能であること → 学修成果の可視化

(1) 学習成果の測定指標の種類を2軸により4類型に整理した分類と、その例

表1 学習成果の測定指標の分類

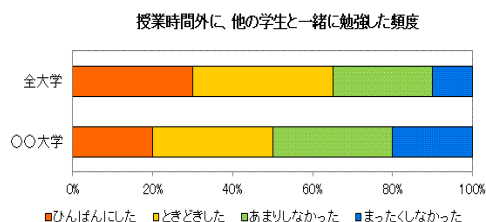
		教育内容・活動と学修成果との関係	
		直接的	間接的
学修成果の測定方法	直接的	教育による直接的な効果を直接測定する指標 例：卒業論文、学科試験、卒業試験、GPA、ポートフォリオ等の質的・量的なもの	教育による間接的な効果を直接測定する指標 例：CLA、MAPP等のジェネリックスキルの統一試験等。
	間接的	教育による直接的な効果を間接測定する指標 例：単位修得、卒業率等	教育による間接的な効果を間接測定する指標 例：満足度アンケート、到達度アンケート

渋井 進, 金 性希, 林 隆之, 井田 正明 著「学習成果に係る標準指標の設定へ向けた検討: 国立大学法人評価における評価結果報告書の分析から」(独立行政法人大学評価・学位授与機構「大学評価・学位研究 第13号(2012)」所収、平成24年3月)6頁より引用。

※備考：プログラムにおけるジェネリック・スキルの評価、標準テスト例（アメリカ）

ETS（Educational Testing Service、1947年設立）のMAPP（Measure of Academic Proficiency and Progress）  
CAE（Council for Aid to Education、1952年設立）によるCLA（Collegiate Learning Assessment）

※ベンチマーク：一般的には、何かを測定する際に設定する基準点のことをいう。高等教育分野においては、ある特定（例：学習成果など）の比較対象において客観的なデータを用い、機関内又は他機関との比較測定するために設定する基準点。ベンチマークを用いた比較の活用により、教育・研究成果の客観的なデータの測定が可能となり、それらの改善や向上につなげることができる。（大学改革支援・学位授与機構刊「高等教育に関する質保証関係用語集」）





キャリア教養学科 履修系統図(図形式) (案)

別添4(キャリア教養学科)

- 建学の精神 実学を重んじ真摯な態度を身につけた人間を育てる。
- 教育理念 自立・創造・真摯
- 教育研究上の目的 1. 修養的教養、基礎的IT能力、コミュニケーション能力、幅広い知識および自己内省力からなる「教養」を基礎とした職業人を養成するために、これらに係る教育研究を行う。  
2. 1.の目的を達成するために、幅広い知識に基づく実務能力を持つ人材を養成する。  
3. 1.の教育研究を通じて、しっかりとした職業意識に基づく基礎的職業能力を身につけた自立した学生をあらゆる職業分野に送り出す。

教育課程の編成及び実施に関する方針(抄) (教育課程編成・実施の方針、カリキュラム・ポリシー)		1年次 春semester		1年次 秋semester		2年次 春semester		2年次 秋semester	
		授業科目名・単位数		授業科目名・単位数		授業科目名・単位数		授業科目名・単位数	
現代社会を多面的に把握して、主体的に生きる知恵としての教養を身につける教授内容で構成する。	学びの意味を考え、学びの基礎を身につける。	心の充実	1科目2単位 必修	心の充実(講)・2					
	文学・歴史・芸術・ことばについて考える。	思想と文化	1科目2単位 選択必修	思索と思潮(講)・2 / 文学の世界(講)・2 / 歴史の認識(講)・2 / 色彩論(講)・2 / ことばとコミュニケーション(講)・2 / 芸術の世界(講)・2					
	経済・経営・生活・教育・法律を考える。	社会と人間	1科目2単位 選択必修	企業と経営(講)・2 / 教育と発達環境(講)・2 / 法と個人(講)・2 / スポーツ論(講)・2 / 経済とくらし(講)・2					
	環境・情報・健康・科学・数理・心理を考える。	情報と科学	1科目2単位 選択必修	環境と情報(講)・2 / 健康と科学(講)・2 / 数理と論理(講)・2 / 心理学(講)・2					
「教養ある職業人」として求められる専門職業能力(実務能力)、コミュニケーションスキル、情報能力を身につけるための教授内容を「キャリア形成科目」「キャリア教養科目」「ビジネス形成科目」「情報・医療事務科目」に分類し、さらにそれらを総合するための「課題研究」を必修として教育課程を構成する。	将来のキャリアを展望し、そのための基礎能力を培う。	キャリア形成科目	計 19単位 [全コース：19単位必修]	ジェンダーと職業(講)・2 キャリア形成演習Ⅰ(演)・1 イングリッシュ・リテラシーⅠ(演)・1 プレゼンテーション概論(講)・2 情報活用(演)・2 表計算演習(演)・1	課題研究Ⅰ(演)・1 キャリア形成演習Ⅱ(演)・1 日本語表現法(講)・2 イングリッシュ・リテラシーⅡ(演)・1 プレゼンテーション演習Ⅰ(演)・2	課題研究Ⅱ(演)・1 キャリア形成演習Ⅲ(演)・1	課題研究Ⅲ(演)・1		
			計 11単位	インターンシップ(実習)・2 国際文化研修(演)・4	健康づくりと運動(講)・2 健康スポーツ(実技)・1	プレゼンテーション演習Ⅱ(演)・2			
	キャリアにつながる知識と実務能力を身につける。	キャリア教養科目	計 41単位 [キャリア教養コース：20単位以上]	心理学入門(講)・2 歴史学概論(講)・2 キャリア・イングリッシュⅠ(演)・1 秘書学概論(講)・2	社会心理学(講)・2 民族の文化と歴史(講)・2 外から見た日本(講)・2 日本文化論(講)・2 色彩演習Ⅰ(演)・1 キャリア・イングリッシュⅡ(演)・1 秘書実務Ⅰ(演)・2	消費者心理学(講)・2 異文化理解(講)・2 色彩心理学(講)・2 色彩演習Ⅱ(演)・1 キャリア・イングリッシュⅢ(演)・1 秘書実務Ⅱ(演)・2	民法(講)・2 ヨーロッパ近現代史(講)・2 芸能と社会(講)・2 言語表現法(演)・1 キャリア・イングリッシュⅣ(演)・1 秘書学演習(演)・2 国際秘書概論(講)・2		
			計 40単位 [ビジネス経営コース：20単位以上]	経営学入門(講)・2 経営管理論(講)・2 ファッション素材論(講)・2 ファッション素材演習Ⅰ(演)・1	経済と社会(講)・2 初級簿記(講)・2 初級簿記演習(演)・1 ビジネス実務論Ⅰ(講)・2 ビジネス実務演習Ⅰ(演)・2	人的資源論(講)・2 中級簿記(講)・2 中級簿記演習(演)・1 財務会計論(講)・2 ファッション素材演習Ⅱ(演)・1 ビジネス実務論Ⅱ(講)・2	企業環境論(講)・2 企業関連法(講)・2 マーケティング論(講)・2 地域社会と中小企業(講)・2 産業カウンセリング(講)・2 財務分析論(講)・2 ビジネス実務演習Ⅱ(演)・2		
オフィス実務を支えるICT・医療事務の知識を身につける。	情報・医療事務科目	計 42単位 [情報・医療事務コース：20単位以上]	情報科学入門(講)・2	データ構造とアルゴリズム(講)・2 パソコンセットアップ演習(演)・2 ホームページ作成演習(演)・2 表計算応用演習(演)・2 医療秘書概論(講)・2	情報数学(講)・2 Java入門(演)・2 データベース入門(演)・2 画像処理演習(演)・2 インターネット・イングリッシュⅠ(演)・1 医療秘書実務(演)・2 医学と薬理の基礎知識(講)・2	情報ネットワーク論(講)・2 経営科学(講)・2 情報と人間(講)・2 Java応用(演)・2 データベース応用(演)・2 プレゼンテーション演習Ⅲ(演)・2 インターネット・イングリッシュⅡ(演)・1 診療報酬請求事務(演)・2 解剖生理学の基礎知識(講)・2			

卒業の認定に関する方針(卒業認定・学位授与の方針、ディプロマ・ポリシー)

- 知識・技能**  
自己を成長させながら社会に貢献できる「教養ある職業人」として自立するための、幅広い知識と基礎的な専門職業能力(実務能力)を身につけている。
- コミュニケーションスキル・情報リテラシー**  
グローバル化の中で展開する知識基盤社会において、諸課題に取り組むための情報能力と異文化理解力を身につけるとともに、適切な自己表現ができる。
- 論理的思考力・問題解決力**  
広く深い教養と専門的職業能力・専門知識を身につけ、課題発見とその解決能力を有している。
- 社会性・協調性**  
教養とキャリアにかかわる学びを通し、自立した社会人になるための実践力と創造性を有している。



幼児教育保育学科 履修系統図(図形式) ~~(案)~~

建学の精神 実学を重んじ真摯な態度を身につけた人間を育てる。  
 教育理念 自立・創造・真摯  
 教育研究上の目的

1. 幼児教育および保育に携わる者として必要な豊かな人間性を育み、さらに高度な専門的知識および技術を身につけさせるために、これに係る教育研究を行う。
2. 1.の目的を達成するために、幼児教育および保育を通して人間関係の基礎を教授し、保育の技術を実践的に教授する。そして、保育を通して自己の成長を図るように教育する。
3. 1.の教育研究を通じて、質の高い実践力を持ち、自覚または責任を兼ね備え、子どもたちと心を通い合わせることで豊かな人間性を持った保育者を社会に送り出す。

教育課程の編成及び実施に関する方針 (教育課程編成・実施の方針、カリキュラム・ポリシー)		1 年次 春semester		1 年次 秋semester		2 年次 春semester		2 年次 秋semester	
		授業科目名・単位数		授業科目名・単位数		授業科目名・単位数		授業科目名・単位数	
現代社会を多面的に把握して、主体的に生きる知恵としての教養を身につける教授内容で構成する。	学びの意味を考え、学びの基礎を身につける。	現代教養講座	心の充実 心の充実(講)・2 ※1科目2単位必修						
	文学・歴史・芸術・ことばについて考える。		思想と文化 思索と思潮(講)・2 / 文学の世界(講)・2 / 歴史の認識(講)・2 / 色彩論(講)・2 / ことばとコミュニケーション(講)・2 / 芸術の世界(講)・2 ※1科目2単位選択必修						
	経済・経営・生活・教育・法律を考える。		社会と人間 企業と経営(講)・2 / 教育と発達環境(講)・2 / 法と個人(講)・2 / スポーツ論(講)・2 / 経済とくらし(講)・2 ※1科目2単位選択必修						
	環境・情報・健康・科学・教理・心理を考える。		情報と科学 環境と情報(講)・2 / 健康と科学(講)・2 / 教理と論理(講)・2 / 心理学(講)・2 ※1科目2単位選択必修						
乳幼児期の発達と教育についてよく理解をした上で、専門家としての質の高い保育者となっていくために、「教育の本質と目的」「教育の対象の理解と方法」「保育内容の研究」「保育者の知識と技能」と、基礎・基本を踏まえ、実践的・多面的に教育課程を構成する。	保育者に求められる、教育・保育の本質、基礎・基本を広い視点から多面的に学ぶ。	教育の本質と目的	必修	教育原理(講)・2	社会福祉論(講)・2			保育者論(講)・2	
			選択	日本国憲法(講)・2 保育社会学(講)・2 児童家庭福祉論(講)・2 保育原理(講)・2	社会的養護(講)・2	教育史(教育制度を含む)(講)・2	相談援助(演)・2 児童家庭福祉方法論(演)・2		
	乳幼児の発達の方向性を理解し、乳幼児期にふさわしい、一人一人に応じた適切な援助の方法を学ぶ。	教育の対象の理解と方法	必修	発達心理学 I (講)・2	教育心理学(講)・2	臨床心理学(演)・1 子どもの食と栄養(演)・2	発達心理学 II (演)・2 カウンセリング(演)・1 家庭支援論(講)・2		
			選択	障害児保育(演)・2	障害児援助技術(演)・1 教育課程論(講)・2 乳児保育(演)・2	子どもの保健 I A(講)・2 乳児保育の実際(演)・1 保育指導法(演)・1	教育方法論(教育工学を含む)(講)・2 子どもの保健 I B(講)・2 子どもの保健 II (演)・1		
	乳幼児の発達に即して全領域を総合的に実践していく力を身につける。	保育内容の研究	必修		幼児と健康(指導法)(演)・1 幼児と音楽(指導法)(演)・1	保育内容総論(演)・2 幼児と環境(指導法)(演)・1 幼児とことば(指導法)(演)・1 幼児と絵(指導法)(演)・1			
			選択	教育実習(事前事後の指導を含む) 保育実習指導 I (施設)・保育実習 I	教育実習(事前事後の指導を含む) 保育実習指導 I (保育所)・保育実習 I 保育実習指導 II ・保育実習 II 保育実習指導 III ・保育実習 III	生活と遊び(指導法)(演)・1 ことばの教材(指導法)(演)・1	幼児と運動(指導法)(演)・1 リトミック(指導法)(演)・1 社会的養護内容(演)・2	教育実習(事前事後の指導を含む) 造形表現(指導法)(演)・1 幼児音楽教育法(演)・1 保育相談支援(演)・1 保育・教職実践演習(幼稚園)(演)・2	
	保育を实践する上での基礎的・基本的な知識と技能を学び身につける。	保育者の知識と技能	必修	国語(講)・2 音楽の基礎(演)・1 器楽 I (演)・1 平面美術構成(演)・1 基礎体育 I (演)・1	声楽 I (演)・1 器楽 II (演)・1 立体美術構成(演)・1 基礎体育 II (演)・1	声楽 II (演)・1	総合体育(実)・1		
			選択	児童文学(講)・2 身体活動論(講)・2 英会話 I (演)・1 コンピュータ演習 I (演)・1	児童文化(言語表現)(演)・1 英会話 II (演)・1 コンピュータ演習 II (演)・1	課題研究(演)・2 器楽 III (演)・1	課題研究(演)・2 器楽 IV (演)・1 合唱 I (演)・1 合唱 II (演)・1 手作り玩具(指導法)(演)・1		

卒業の認定に関する方針(卒業認定・学位授与の方針、ディプロマ・ポリシー)

- 1. 知識・技能**  
人間性豊かで実践力のある教育者・保育者を目指していくため、幼児教育・保育に関する幅広い専門的知識および技能を有している。
- 2. 活用能力・自他の理解能力・コミュニケーション能力**  
幼児教育・保育に求められる多様な教育課題に対して、幅広い専門的知識および技能を活用し、物事を多角的に捉え、子どもたち一人一人の個性を把握しながら、コミュニケーションする能力を身につけている。
- 3. 論理的思考力・課題解決力・創造力**  
幼児教育・保育に求められる多様な教育課題に対して、情報や知識を多面的な視点で論理的に分析・整理して捉え、新しい発想を取り入れながら、課題解決に向け真摯に取り組むことができる能力を身につけている。
- 4. 自律性・協働性**  
・幼児教育・保育に求められる多様な教育課題に対して、主体的・自律的に取り組むことができる。  
・自らの能力を高めるべく、不断に自己研鑽に励むことができる。  
・自らの考えを伝えながら、他者と円滑に協調・協働して取り組むことができ、人間関係形成能力を身につけている。

学科の授業科目										学修成果(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)								
科目区分	科目番号	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	単位数・選択	授業概要・キーワード	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学習目標 (到達目標)	成績評価方法・基準	学年	春	夏	秋	冬	1. 知識・技能	2. 活用能力・その他の理解能力・コミュニケーション能力	3. 論理的思考力・課題解決力・創造力	4. 自律性・協働性
															人間性豊かで実践力のある教育者・保育者を目指すため、幼児教育・保育に関する幅広い専門的知識および技能を有している。	幼児教育・保育に求められる多様な教育課題に対して、幅広い専門的知識および技能を活用し、物事を多角的に捉え、子どもたち一人一人の個性を把握しながら、コミュニケーションする能力を身につけている。	幼児教育・保育に求められる多様な教育課題に対して、情報や知識を多面的な視点で論理的に分析・整理して捉え、新しい発想を取り入れながら、課題解決に向け真摯に取り組むことができる能力を身につけている。	幼児教育・保育に求められる多様な教育課題に対して、主体的・自律的に取り組むことができる。 ・自らの能力を高めるべく、不断に自己研鑽に励むことができる。 ・自らの考えを伝えながら、他者と円滑に協調・協働して取り組むことができ、人間関係形成能力を身につけている。
		児童家庭福祉論	講義	2		保育士として理解しておくべき児童家庭福祉の基礎知識を概観し、保育士が子どもや家庭の福祉にどのように貢献しうるかを考える。 キーワード:子育て家庭、福祉	・子どもを取り巻く環境 ・児童家庭福祉の法体系、行政、実施機関 ・児童家庭福祉の施設とサービス	1. 現代日本が直面する児童問題の内容と背景を説明できる。 2. 当該分野で提供される施策と福祉サービスの概要を説明できる。 3. 「児童の権利」を説明できる。	・確認テスト40% 「学生の学習目標」1, 2, 3に対応して、主に用語補充の形式で知識と理解度を評価する。 ・リアクションカードへの記述40% 「学生の学習目標」1, 3に対応して、授業ごと設定されたテーマに沿った記述の内容を評価する。 ・レポート20% 「学生の学習目標」2に対応して、主に福祉の法体系に関する出題を行う。	1	○	—	●		◎	○		
		保育者論	講義	2		子どもの発達や周囲の状況など様々なことがらを視野に入れながら、職務に当たる専門家としての保育者の在り方を考えていく。保育者の質の向上	1. 幼児を取り巻く環境や課題 2. 教育基本法や関連法の改正により、人格形成の基礎を培う幼児期の教育の重要性 3. 求められている幼児に対する教育の質の向上、保育者の資質向上	1. 保育者は、何をどのように考えて仕事を進めていくのか、保育者の在り方についての理解を深め、目標を高くして意欲的に学習することができる。 2. 保育の質の向上が求められていることを心にとめて、保育者として常に力量を高めよう意欲的に自ら考える力、洞察力・判断力、自己表現力、協働する力を身に付けられる。	小レポート(70%) 「学生の学習目標」1, 2に対応して評価する。 話し合いへの積極的姿勢(20%) 「学生の学習目標」2に対応して評価する。 授業参加態度(10%) 「学生の学習目標」1, 2に対応して評価する	2	—	○	●	●	◎	●		
		発達心理学 I	講義	2		胎児期および乳児期から幼児期の発達について基礎的な知識を学ぶ。毎回の問題提起について考え、子どもたちの安全と幸福のために何をすべきか判断する力を身につけることを目指す。 キーワード:発達	人間の発達の概要について理解したうえで、胎児期および乳児期から幼児期にかけて、以下の発達について学ぶ。 1. 身体と運動能力 2. 知覚と認知 3. 感情 4. ことば 5. 人間関係 6. 自己 7. 道徳性・社会性	1. 子どもの心と身体がどのように発達するのかについて、保育者として求められる基本的な知識を理解できる。 2. 子どもの発達に大人が及ぼす影響について学び、保育者として子どもたちにどのように関わるべきかについて考えられるようになる。 3. 子どもたち一人ひとりの個性を把握し、保育・教育活動に反映できる保育者になることができる。	・定期試験70% 「学生の学習目標」1に対応して、重要な概念や語句の理解ができていくことを確認するため、正誤問題、記号選択問題を中心に出题する。 ・授業中の問題提起への回答30% 「学生の学習目標」2, 3に対応して、毎授業中に提示する問題提起に対し、授業内容を踏まえて自分なりの回答を書いているかを評価する。	1	○	—	●	○	◎	○		
		乳児保育	演習	2		保育者として乳児を担当する際に求められる、乳児保育に関する基本的な知識や技術を習得する。	乳児の発達過程や特徴に関する基本的な知識の学習に加え、事例や体験学習に触れる機会も多くもち、より実践的な力を身につけていく。	1. 乳児の発達について理解する 2. 理解したことを実践に結びつけることができる。 3. 乳児保育に必要な安全で快適な環境を考え、構成する力を身につけることができる。 4. 長期、短期の保育計画を作成できる。	定期試験60%(授業で学んだことを理解し、実践の場面に応用したり、自分の言葉で説明できる)、発達に関する小テスト 20%、ポストレクチャー及び授業への取り組み20%を、それぞれ学習目標1・2・3に対応して評価する	1	—	○	●	●	●	◎		
		幼児と運動(指導法)	演習	1		幼児期の運動の重要性や、子供が必要な体力を身につけるために、保育者としてどのように指導していくべきかを学ぶ。	1. 幼児期の運動の重要性について理解する。 2. 模擬授業を通して、運動遊びに関する指導法や、環境設定、リスクマネジメントについて学ぶ。	1. 子供の発達段階に応じた運動遊びの指導法や環境設定について、多面的な視点で観て考えられるようになる。 2. 運動遊びにおける保育者としての役割を理解し、保育者に必要な知識や心構えを身に付ける。	・全授業後に実施する定期試験:60% 「学生の学習目標」1.2に対応) ・授業内で行う模擬授業及びそれに向けた取り組み:30% 「学生の学習目標」1.2に対応) ・授業への貢献度(受講態度と実技の積極性):10% 「学生の学習目標」2に対応)	2	○	—	◎	◎	●	◎		
		幼児音楽教育法	演習	1		幼児の表現活動や音楽表現の特徴を理解し、幼児の音楽活動を支援するために必要な基礎技術を学ぶ。	前半は手遊び、歌遊び、音遊びなど様々な音楽活動のレパートリーを充実させ、後半は模擬保育を中心に授業を進める。	1. 手遊び、歌遊び、音遊びなどの様々な音楽活動のレパートリーを広げることができる。 2. 保育士・幼稚園教諭として必要な音楽の指導力を身につける。	リアクションカードの記述内容、課題・模擬保育の実施状況、レポートの結果によって評価する。 1. リアクションカードの記述内容20% 「学生の学習目標」1に対応) 2. 課題・模擬保育の実施状況30% 「学生の学習目標」2に対応) 3. レポート50% 「学生の学習目標」1, 2に対応)	2	—	○	◎	◎	●	●		
		平面美術構成	演習	1		幼児が使用しやすい描画材料(鉛筆・クレヨン等)を用い、様々なテーマにそって、自らのイメージの基に、平面(絵画)表現をおこなう。	美術を得意とするものはその興味をさらに広げ、不得意なものは作り出す喜びを知ることのつなげていく。	1. 各自が主体的に描画体験ウィすることで、観察することの意味、イメージを視覚化することの面白さが理解できる。 2. 幼児が使いやすい描画材料の特性を理解し、幼児の表現活動に適した環境を構成することにつなげられる。	授業への貢献度(製作に取り組む姿勢・発表時の発言内容等)30% 作品の提出状況70%	1	○	—	◎	●	◎			